

E 21 公営住宅における住戸へのアクセス方式について  
琉球大教育 鈴木雅夫

目的、沖縄県はテラスアクセス方式を取り入れた南島型県営住宅を設計し、1984年から建設を行ってきた。この設計は階段の位置と住戸への入り方に特徴があり、従来の標準型が北側の階段から玄関に入る北玄関アクセス方式とは異なり、逆に、南側の階段からテラスに入る南テラスアクセス方式をとっている。このような設計の考え方は、沖縄の伝統的な半戸外空間である雨端(アマハヅ)の適用にもとずいているが、この新しい方式が入居者にどのように評価されているか明らかにする。

方法、沖縄県が1983年から1987年にかけて建設した県営住宅の中から、従来の北玄関型と南テラス型の団地をそれぞれ3団地ずつ選び、アンケート調査を実施した。調査の時期は1990年7月である。対象とした団地の住戸規模はほぼ同じ広さのものに限定した。調査票はすべて同じ項目で作成し、1週間留め置いた後で回収した。

結果、回収数と回収率(%)は、北玄関型が238戸(73%)、南テラス型が235戸(88%)であった。家族構成はいずれも核家族が77~78%を占めている。

階段の位置については、「現状でよい」が北玄関型の約72%に対し、南テラス型は約88%であり、16ポイントの差がある。住戸への入り方については、「現状でよい」が北玄関型の約62%に対し、南テラス型では約76%であり、14ポイントの差がある。この2つの項目について、南テラス型の評価がいずれも10数パーセント上回っている。南テラス型の住戸への入り方について、「広くて気持ちがいい」「ゆったりしている」「開放的である」と感じている一方で、「普通の玄関から入る方がよい」という意見もあった。